

新山口駅北口駅前広場 「0番線」・南北自由通路



南北自由通路から線路を望む。

review

選評

「0番線」と名付けられた駅前広場とは…？
そんな疑問と一種の期待を持って現地審査に臨んだ。そこには、駅前広場にありがちな特有の大仰さなどを全く感じさせない、地方都市でこそ
のヒューマンなパブリックスペースが生み出されて
いた。

「0番線」とは、バスやタクシーなどの乗降場と駅前集まり憩う人々の流れを線路に見立て、既存市街地へと連続する東西に長い敷地のポテンシャルを最大限に活かし、駅がまちへ進出していくことをイメージして名付けられた。

企画者である山口市が立案した「自然と都市が調和する個性的かつ機能的な快適交流空間」という基本コンセプトの実現に向け、北側の「0番線」から、S・L・ディーゼル・在来線・新幹線という四世代の鉄道線路を越える南北自由通路、そして南側新幹線口までを一体の駅空間と捉え、「まちと駅をつなぐ」新しいパブリック空間を見事にインテグレートしている。

「南北自由通路」は、周辺の山並みや鉄道に親しむことができるよう、開放的なデザインでまとめられている。パトリック・ブラン氏監修による通路壁面に設けられた垂直庭園は、多くのポランテアの協力の下、山口県内の森林で採取された野生植物が厳選され、地元の園芸業者の圃場で培養したうえで植え込まれている。光と風、植物の匂い、灌水の音など五感を刺激するヒューマンなシークエンスは見事である。一般市民サポーターを含む定期的メンテナンス、庭案内人によるツアーやワークショップなど、市民の財産として完全に浸透しているようである。

一方、「0番線」と名付けられたブリッジ状の施設は、その下部に交番・トイレ・観光案内所・カフェなどを分散的に内包する。個別の施設間の空間は、時にはカフェテラス、フリーマーケットなど多用途に利用可能であり、シームレスな複合体としてまとめられている。主要動線を集約した「グランドプラザ」は「0番線」と南北通路を有機的に繋いでいて、利用者の「見る／見られる」関係をつくりだし、親近感の創出に成功している。



新山口駅北側に設けられた「0番線」のサイン

《2019年 第60回 BCS賞受賞作品》愛知県立愛知総合工科高等学校／赤坂インターシティAIR（赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業）／OIST 沖縄科学技術大学院大学 フェイズ1／太田市民会館／オーディオテクニカ本社／GINZA SIX／新発田市新庁舎／新山口駅北口駅前広場「0番線」・南北自由通路／東京ガーデンテラス紀尾井町／東京ミッドタウン日比谷／富山県美術館／ナセBA（市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー）／HIRAKATA T-SITE／フェスティバルシティ（中之島フェスティバルタワー（東地区）、中之島フェスティバルタワー・ウエスト（西地区））／立命館大学大阪いはらきキャンパス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2019年で60回を数えました。



建築主より

Message from Client

山口市長

渡辺純忠 Sumitada Watanabe

駅前広場から広がるまちづくり

“広く次世代にわたり多面的な観点からの存在感を発揮し続ける駅空間はどうあるべきか”。駅前広場の新たな可能性について優れた提案を求め投げかけました。

こうして“まちと駅をつなぐ0番線というコンセプト”が生まれ、市民との協働のもと創り上げた駅前広場は、市・県の陸の玄関に相応しい快適な駅空間として、交通だけでなく人の結節点にもなり、“0番線”の愛称と共に周辺地域へ賑わいの浸透を図ることができています。更に、駅前広場西側に広がるエリアにて、山口県NO.1のビジネス街の形成を目指し、山口市産業交流拠点施設を整備しています。これらが相乗効果を発揮し、更なる賑わいを創出する空間となるとともに、求心力、拠点性を高めることで、市が取り組む広域県央中核都市づくりを着実に進めます。受賞に対し、関係者の皆様に感謝申し上げます。



設計者より

Message from Architect

株式会社ブランツアソシエイツ
代表取締役

宮崎浩 Hiroshi Miyazaki

まちと駅をつなぐ「0番線」

東日本大震災を経て、建築／公共施設に何が出来るかを考え続けた7年間でした。設計～工事期間を通じ、設計チームはもちろん、発注者、施工者、ワークショップ等に参加いただいた市民の方々など、プロジェクトに関わるすべての人を「チーム0番線」のメンバーとして巻き込みながら、地方都市におけるまちづくりの課題や、公共施設をつくるプロセスへの市民参加についても、皆で一緒に考え、ゴールを目指して出来上がったものです。今回、BCS賞を受賞できたことは、こうした取り組みすべてが評価されたものとして、大変嬉しく思います。

全体の供用開始から2年が経ち、広場の植栽もだいふ育ってきました。隣接する拠点施設や南口広場が完成すれば、より広域での回遊性も実現します。この駅前広場が、県や市の玄関口として、これからも人々に親しまれ続けていくことを期待しています。



施工者より

Message from Builder

大鉄工業株式会社
建築支店 建築工事第一部 部長(当時 所長)

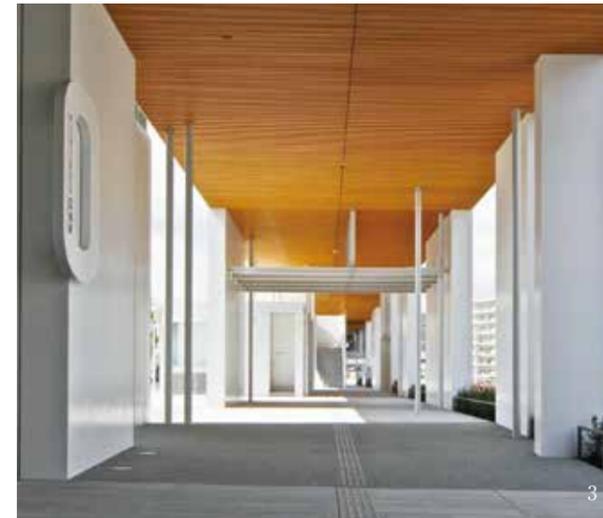
廣方健二 Kenji Hirokawa

地域の方々に喜ばれ、訪れた人々の記憶に残る空間をつくる

本工事は、事業主体である山口市の『自然と都市が調和する個性的かつ機能的な快適交流空間』という基本コンセプトの実現に向け、丁寧かつ慎重に進めました。

在来線・新幹線の鉄道駅を営業しながら、線路12線の上空に南北自由通路を新築するため狭隘な場所での施工が必要でしたが、施工手順や仮設計画の検討、列車の停止位置変更を行い、ご利用者様への不便を最小限に抑えるように努めました。また、120mに渡る長大構造物の鉄骨梁をそのまま天井仕上げの一部として利用するので、建方精度を厳しく管理し、溶接時の曲りや歪みのないよう施工しました。

私たちは、これからも多くの方々に喜ばれ人々の記憶に残る空間をつくっていけるよう努力を重ねていきたいと思ひます。



1. 北口駅前広場「0番線」・南北自由通路の全景
2. 地上階北側の回廊
3. 市道に沿って190mの長さをもつ「0番線」のファサード
4. ランダムな植栽配置が滞留空間をつくり出す「0テラス」

新山口駅北口駅前広場「0番線」・南北自由通路 計画概要	
●建築主	山口市 西日本旅客鉄道(株)
●設計者	(株)ブランツアソシエイツ ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) パトリック プラン
●施工者	山口建設(株)、防長建設工業(株)、大鉄工業(株)、 大成建設(株)、シルバイン ビドゥ、 新山口駅南北自由通路垂直庭園実行委員会
●所在地	山口県山口市小郡下郷1256-24外
●竣工日	2018年3月22日
●敷地面積	駅前広場：4,615㎡ 自由通路：16,021㎡
●建築面積	駅前広場：3,114㎡ 自由通路：1,523㎡
●延床面積	駅前広場：2,672㎡ 自由通路：1,539㎡
●階数	駅前広場：地上3階 自由通路：地上2階
●構造	駅前広場：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 自由通路：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造

現在進められている隣接の拠点施設整備には「0テラス」が延長されて駅から繋がるなど、「0番線」コンセプトがしっかりと定着している。山口市による基本構想の策定から設計者選定プロポーザル、市民参加のワークショップ、設計者の自主提案から設計、施工段階での市民の巻き込み、運営やメンテナンスの公募・参加など、新しいパブリック空間づくりに大きな一石を投じるプロジェクトである。

「選考委員」 竹内徹・川島克也・栗山茂樹